

【データWGにおける検討課題（案）】

オープンデータに用いるデータ形式として利用できる規格は、既に様々なデータ規格（※）として確立している。機械判読の可能性やプログラムによる加工しやすさなど、技術的要件は既に広く知られている。

したがって、本WGでは、オープンデータ向けの新しいデータ規格を策定するのではなく、既に他の場で行われているデータ形式に関する議論やその成果を踏まえつつ、既存のデータ規格をどのような場面でどのように使うのか等に着目し、以下の事項について検討することが適当ではないか。

（※）オープンデータに利用可能なデータ規格には、RDF (Resource Description Format)、XML (eXtensible Markup Language)、csv (Comma-Separated Values)、JPEG (Joint Photographic Experts Group)など、特定企業規格に依らないものと、doc、docx、xls、xlsx、PDFといった、特定企業由来のものがあり、政府のオープンデータにどれが適切かについては議論が必要。

データ形式・構造の標準化

現在のデータ形式をより機械判読が容易なものに変更・変換していくための手順

複数のデータを組み合わせて利用しやすくするための融合キー・共通コードの在り方

機械判読が容易なデータ形式で公開されるデータの質・量の充実のための技術的手法（データの鮮度・精度の向上、加工前データの活用等）

データカタログ

データカタログに求められる機能、構成

データカタログ掲載に当たり必要となるメタデータの在り方とデータカタログ掲載のための手順

ロードマップ

実務者会議（親会）でロードマップを作成するに当たって必要となる事項の検討・整理

【データWGにおける検討の進め方（要検討事項）】

- 複数ある検討課題について、どのような順序で議論を進めるか。
- 利用者側（民間企業等）のニーズ等をどのようにくみ取るか。WGで意見を聴く機会を設けることなどを考えるか。
- 提供者側（公的機関）における対応が困難な事項（技術的・実務的課題等）がある場合、その課題解決に向け、どのような形で議論を進めるのがよいか。
- 検討に当たって、具体的なデータをどの程度・どのように活用できるか。